

追手門学院大学

校友会会報



第77号

平成26年（2014年）3月1日

発行者 〒567-8502

茨木市西安威2-1-15

追手門学院大学校友会

会長 林田 隆行

電話 072-643-6135

FAX 072-643-6099

URL <http://ogu-koyukai.com>E-mail info@ogu-koyukai.com校友会新会員の
皆さんへ

追手門学院大学校友会

会長 林田隆行（2期）

2013年度

卒業生のみならず、ご卒業、誠に
おめでとうございます。心か
らお慶び申し上げます。

母校が、第一

期の卒業生を社会に送り出したのは、茨木千里丘陵で万国博覧会が開催された1970年春の事でした。それから数えて45回目の学位授与式が、母校の体育館で行われ、みなさんは社会へ飛び立って行かれることになりました。

楽しいことや、時には悩みも抱えながら、青春のひとときを過ごされた母校へ、感謝の思いを忘れることなく、学ばれた多くの事を糧として、しっかりと社会人として歩みを進めていただきたいと思います。

社会人として歩み出され



るみなさんは、同時に、1期々44期におよぶ我々卒業生の新しい仲間になられたということですね。

ご卒業をお祝い申し上げますとともに、校友会の会員となられた事を、ともに

に安威の丘で、青春を過ごした者として、心から歓迎させていただきます。

我々を育てていただいた

母校に卒業生ができることは、社会に役立つ人となつて、その足跡を刻み記す事ができることになることだと思います。人として成長してゆける様、ともに頑張りましょう。また、多くの校友会会員との交わりから、沢山の事が得られる事と思います。追手門学院大学の卒業生であることを誇りとして、校友会の諸活動にもぜひ積極的にご参加ください。みなさんの未来が洋々として輝いている事を心からお祈り申し上げます。

ご卒業・ご入会、誠に

未来を信じて

追手門学院理事長

川原俊明

ご卒業おめでとうございます。みなさんは今から追手門学院大学を旅立つことになりました。大学で学び、そして得たものは一人ひとり異なるものがあるでしょう。知識、人脈、体験、資格、社会性など・・・。

しかしそのどれ一つをとっても、みなさんが社会で活躍するための大きな財産です。みなさんの前途は無限の可能性を秘めているのです。社会で活躍する分野はさまざまでしょう。しかし、どの分野でも自分ひとりの能力には必ず限界があります。社会は人で成り立



っています。みなさんは追手門人脈をフルに活用すべきです。

126年の歴史を刻む追手門学院。幾多の卒業生が社会のあらゆる分野で活躍しています。みなさんも卒業と同時に追手門人脈の仲間なのです。互いに助け合い協力し合って大きく飛躍してください。

追手門学院大学の卒業生であることに自信と誇りを持ってください。昨年末、みなさんと同じ卒業仲間がダブルダッチ世界選手権大会で優勝しました。早くもみなさんの仲間が世界一の座を獲得したのです。みなさんも彼らと同じように世界をめざしましょう。

追手門学院大学も今から大きく変貌を遂げていきます。新キャンパス地移転構想、新学部設置、学部改組など次々に改革を重ねていきます。みなさんが再び追手門学院大学を訪ねてこられた際には、どれだけ変貌を遂げているかを楽しみにしていただきたい。

みなさんのご活躍を期待

追手門学院大学 卒業生である ことに誇りを

追手門学院大学学長

坂井 東洋男



卒業おめでとう。四季折々に素晴らしい美観を誇る追手門学院大学キャンパスで過ごした日々、先生方や友人と交わった学生生活は、刺激的で、楽しいものだったに違いありません。この思い出が、今後、様々な試練を乗り越える心の支えになればと願っています。

在学中に志をとげた方もいらつしやれば、漠たる夢や思いを持ちながらも、ついに果たさずに、卒業の日を迎えたという方もいらつしやることでしょう。しかし、学生時代にえがいた思

い、そしてそのためにがんばった自負は、すぐに花を咲かせることがなくとも、地下茎となつて、いつの日にか芽を吹き、枝葉を延ばし、そして蕾を膨らませて開花します。当初えがいた夢と形は違つても必ず花を咲かせます。現にそうして大輪の花を咲かせた卒業生がたくさんいらつしやいます。

人生は未知の可能性をいっぱい秘めているものです。今後幾つもの岐路や転機が訪れます。そのときには、決して萎縮することなく果敢に挑戦し、精一杯にがんばっていただきたい。

いかなる局面においても縮こまることなく、追手門学院大学の卒業生であることに誇りを持ち、志のある胸を張った人生を送られま

ように。本学院の教育理念は「独立自強 社会有為」。卒業という区切りを迎えられたいま、社会で存分に活躍される皆さんの出番です。皆さんの人生に幸多からんことを祈っています。

次年度の活動に 向けて

副会長 吉田浩幸（6期）

（事務局・総務担当）



平素は本会の活動にご協力

を賜りまして、誠に有難うございます。会員の皆様には、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年11月4日には総会・学部学科同窓会・クラブOB会を開催し、多くの会員の皆様にご出席をいただきました。お陰をもちまして盛會裡に終えることが出来ました。ご協力をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。引き続き、今年の11月2日（日）に開催予定の総会にも多くの方のご参加をよろしくお願い致します。

追手門学院大学は平成28年に創立50周年を迎えます。半世紀にわたり歩んできたことになりました。次の100周年に向かって、校友会

は今後どうあるべきかを活動とおして皆さん方と考え、一歩一歩進めて行きたいと思っております。その中から必ずや新しい時代の校友会像が生み出されて来るものと考えております。

昨年、4月に役員改選が行われましたが、校友会の活動の基盤となつていただく評議員が、各卒業期で空席や人数の少ない卒業学年がありました。今、その部分を埋めることが急務であると考えました。その為には、評議員選出細則を改正して

ルール化をした上で、新評議員に就任をしていただく必要があります。特に、若年層の評議員の補充は今後の校友会活動には必要不可欠であります。また、毎年卒業されます新卒業生にも新しく評議員に就任していただくために、制度化したシステムを作りあげることが必要であります。これらを鑑み細則の変更を理事会に上程し、細則の改正が承認されました。なお、変更されました評議員選出細則は校友会ホームページの校友会会則ホルダーに掲載し

ております。

この評議員選出細則に基づきまして、2月から2号評議員の推薦を開始いたしました。そして、選任された新評議員には4月1日付にて、新たに就任していただきます。皆様には、校友会ホームページにて後日公表させていただきますので、よろしくお願い致します。特に、今年度卒業されます45期生からは、新たな風を校友会の中に吹き込んでいただけるものと期待しております。

今回、慶弔規程の制定も行いました。今までは、大学慶弔規程や教育後援会慶弔規程の横並びの慣習で、その都度会長に指示を仰いで実行しておりました。それらを基に条文に致しまして、理事会に諮って承認を得ました。詳細はホームページをご覧ください。会員の皆様方で、慶弔・弔辞が発生しましたら事務局までご連絡いただきますようお願い致します。この規程に基づきまして対応をさせていただきます。

今年度予算におきまして

は、現在の活動実績を反映させまして、当初の予算から科目間での増減を行い、補正をさせていただきました。より一層活動実績が計算書に現れてくるものとなりました。会員の皆様には書面での活動に参加していただきやすくなると思います。その上で、実際に校友会活動に参加をしていただくことを期待しております。

今後とも、総務担当の副会长と致しまして、校友会の運営・活動の制度化を明確にし、組織的に活性化を進めさせていただきますので、皆様方のご意見やご要望が御座いましたら事務局までお申し出下さい。

皆様方の積極的な校友会活動へのご参加をお願いいたします。

「卒業生の頑張りが、母校の発展に！ 母校の発展が、卒業生の誇りに！」

魅力ある企てと活動を

副会长

賛田 肇（6期）
（企画渉外広報担当）

2013年度新校友会々

員の皆さん、ご卒業並びにご入会、誠を持ってお目出当御座居ます。昨年、校友会は当時4回生の皆様と数々の奉仕活動を行い、1年間を一気に駆け抜けました。後輩の皆様と一緒に汗を流し連帯感と達成感を共有した事を多くの校友が実感しました。本年も基軸は、職業奉仕活動（職業経験を通じて在校生にセミナーや就職支援等の活動）・社会奉仕活動（オープンキャンパス時駅前清掃奉仕等茨木地域活動支援）・国際奉仕活動（留学生交流支援活動等）です。新たに一般校友の皆さんと大いに盛り上がりたく、4月の11日に大阪城スクエアで講演受講後、八軒屋浜から「大川で夜桜見物と舟遊び」を実施します。体育文化振興支援、企画渉外事業、広報委員会がクラブOBと協力し、オープンキャンパス時、クラブ・同好会体験見学会（チャレンジ部）活を、9月には現役学生と將軍山会館で音楽会が開催されます。また、同窓会開催支援の為の新広報システムにもご注目下さい。校友

と在校生と共に、母校の為様々な企画・魅力ある活動を実施して参ります。これらの活動にご理解ご協力賜り、ご参加ご支援賜ります様お願い致します。

広げよう新たな連携と交流

副会长 生川 紳一郎（6期）
（会員支援担当）



今期より校友会は新組織となり、

その一環として本年度の総会には新しい企画にて開催でき成功裡に終えました。多くの卒業生が母校に集まる機会はありませんが、旧交を温めながら母校の発展ぶりを確かめる直接のチャンスだったと思います。

さて、一般社会に出て10〜25年というのは仕事や家庭でも子どもの教育に手が掛かる時期で、母校や旧友とは疎遠になりがちです。支部・同窓会支援委員会の役割とは、校友会は単に同

窓会の交流の場と言うだけでなく母校と言うつながりがあるからこそ、社会に出てから新たな人間関係が構築されることもあり年齢や性別に縛られない新たな連携に発展することで、交流が盛んになるようお手伝いすることと考えております。

今後は少人数でも数多くの支部の開設や会合を開く事で追大ブランドの核が少しずつ広がるように希望し、協力を惜しみませんのでぜひ校友会までご相談下さい。お待ちしております

校友会「リニューアル」総会開催

校友会総会実行委員長

高本 優一（22期）

11月4日、大学の一番大きな教室——本学の栄えある第1期卒業生で、作家の宮本輝氏の著作から命名された「優勝ホール」に、221名を集め、平成25年度総会は開催されました。

開会に先立ち、「がんばる在校生」の社会学部2年佐山千尋さんの三味線の音がホールいっぱいに響き渡り、

盛大な幕開けとなりました。2013年4月に役員改選が行われ、林田隆行会長が誕生しました。新会長の下、2016年に迎える大学50周年を目指し、校友会こそが大学を引っ張る原動力になるべく卒業生で盛り上げようと、総会リニューアル計画がスタートしました。これを達成するために持ち上がったのが、クラブOB会、学年別同窓会と学部学科同窓会の同日実施でした。初めての試みばかりで心配する声もありましたが、総会当日には、14団体118名が参加したOB会と各同窓会が開催されました。特にクラブOB会を盛り上げていくことが校友会の活発化に繋がると実感しました。

しかし、これを継続していく力を校友会は持たねばなりません。次年度2014年度、2015年度とさらに総会を盛り上げ、2016年の50周年につなげるべくさらに努力していきたいと思っております。皆様、より一層のご協力をお願いいたします。

支部便り

東京支部

支部長 春名 弥生

（6期）



平成25年11月9日（土）15時30分

より、六本木の東京ミッドタウン1階にあるレストラ『ORANGE』にて開催されました。

大学からは梶原経営学部学部長をはじめ、大阪本部校友会役員や他の支部長もご参加いただき、約30名が集いました。

東京支部の活動報告や会計報告が承認されたのち、支部長任期満了に伴い新支部長の選出が行われ、次期東京支部長が決定しました。

新支部長は、17期生（昭和57年入学）経済学部経営学科卒業の島田朗仁氏（50歳・ハンドボール部）です。

支部活動のよりいっそうの活性化を図りたく、平成生まれの会員の皆様が親近感をもって、積極的に支部

活動に参加下さることを願って止みません。

もちろん、東京支部には、2期卒の先輩からずらりと大変ユニークで豊富な人材が揃っておりますので、まずは是非、総会にご出席下さいますようお願い申し上げます。

懇親会では、梶原先生から母校の改革構想をお伺いし、林田新会長からも校友会の組織再編計画が熱く語られ、元気を頂きました。さらに参加者の自己紹介と名刺交換で会場は大変盛り上がりしました。

予定の2時間を過ぎる頃には、大半の有志参加で、2次会場である六本木の街中へ移動し、こちらでも交流を深め、盛会のうちに閉会しました。

新東京支部長ご紹介

島田朗仁氏

（17期）

経済学部経営学科卒業



九州支部

支部長 岩崎陽一

（6期）



本部より広報活動の一環として、

各支部の有名品を販売し、

関西以外出身の学生との交流コーナーとしてはとの提案を受け、九州支部は「通りもん」と「筑紫餅」の両品を実験販売いたしました。

当初、当地区出身の学生諸君が若干でも立ち寄ってくれることを願いつつ指定テントで待つていました。

時間が経過するにつれ、近辺の模擬店への学生数が増え、同じテントでスタンバイしている各支部長とも期待を上げていました。しかしながら、「九州からも来てるの」との声のみで、販売品への購入までには至りませんでした。時折購入して下さる方は、近隣的一般参加の方又は保護者的な方でした。

我々の期待した各支部出身の学生は皆無で、最終的

には校友会役員への押し売り合戦となりました。

企画的には良いものでしたが、事前のPR不足を反省いたしました。次年度は支部の活動広報を含め、物販販売だけでなく人的交流が深まるアイデアを各支部長さんと協議したく思いました。

京都支部

支部長 岡 正樹

（6期）



平成25年度卒業生の皆様、ご卒業

おめでとうございます。

これから始まる新生活、

大きな希望と多少プレッシャーもあ

りもあるの第一歩、社会人人生がスタートしようとしている今をこれから始まる人生のメモリーにしてください。

京都支部では、7月26日（土）15時より「きらっ都プラザ会議室（京都産業会館）」にて総会・講演会、そして懇親会を開催いたします。

す。

後日、ご案内をさせていただきますので、ふるってご参加ください。また、毎年2月又は3月には「京都支部の集い」を開催いたしますので、会員のみなさま方のふれあいの場とネットワークの輪を広げる場として行っております。

京都にお住まいか、勤務されている方の積極的なご参加をお待ちしております。

中国支部

支部長 筒井 弘祐

（6期）



前日から参加しうと思

たのですが、仕事の関係上、11月4日当日の10時に大学の方へ着きました。前日から、また当日朝早くから参加準備されて大変だったと思います。今回各地区のおみやげを用意して、なつかしく買っていたかどうかという企画がありました。盛り上がりがいま少し足りな

った様に思います。これをカミングデーの会場入口だったら、もっと違ったのかなあと今になって思います。10時30分からの総会は、本日の総会らしく、重みのある総会だったと思います。今までは小さな会場で身内だけで聞いていた様に思い、それに比べるとたいへん良かった様に思います。しいて言えばもう少し時間の調整をしたら良かったのではないかと思います。今回はいつになく身の引き締まった総会でしたし、参加してよかったと思っております。

■ 四国支部 ■

支部長 中川 純
(21期)



11月 4日に
開催さ
れたホ
ームカ

ミングデー(校友会総会、懇親会、クラブOB会)に参加しました。この行事に参加するのは昨年に引き続き2回目です。昨年は、卒業以来、20数年振りの訪問

であったため、大学の変容ぶりに浦島太郎状態であり、新しい校舎群を見学するなど、完全なお上りさんでした。

今年の校友会総会は、優勝ホールにおいてパワーポイント等を活用しての進行であったため参加している校友会員の活動について理解しやすいように工夫されていたと感じました。懇親会では、事前に友人に参加を呼び掛けていた事もあり、同期をはじめ現役時代に交流のあった方たちとの再会を果たすことができホームカミングデーを友人との交流の場に活用するのにも良い方法だと思いました。

懇親会後には、クラブのOB会に参加をし、現役生の活動状況を知ることが出来ました。

また、今回は、校友会本部の発案で各地区物産展を行うこととなり、四国支部からは、愛媛県今治市のゆるキャラ「バリーさんグッズ」を販売しました。

このグッズも好評で、2時には完売していました。

今回のホームカミングデーでは現役時代のノスタルジーにも浸れ、大学の今を感じることでも非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。来年も是非参加したいと思います。

■ 東海支部 ■

支部長 高井郁子
(9期)



2013年度卒業の皆さん。

様、まことに改めてとうございます。

今回、各地域のお土産、有名品を、現役学生や卒業生の交流に役立てようとの初めての試みを企画されました。東海支部からも、名品をご用意し、皆様と親しく歓談させていただこうとはりきっておりましたが、ホームカミングデー数日前に体調を崩し、参加できませんでした。

大変残念な事でしたが、次回には必ず体調を整え、参加させていただきます。よろしく願いいたします。

五十周年記念・ 校友会グッズ販売に 携わって

清水 一朗 (15期)

(校友会評議員)

去る11月4日のホームカミング・デーに、記念グッズの販売をさせて頂きました。前々日より担当メンバーが集まりグッズの商品チェック、数量確認、価格の決定、備品の確認、プライスカードの作成、販売ブースの配置と設営等、多くのことを行わなければならませんでしたので、大変ではありましたが、ホームカミングデーを成功させるの思いで準備を整えました。

50周年記念グッズは、クリップ、各種ペン、USBメモリ、マグカップ、タオル、Tシャツ、ネクタイなど9品目21アイテムを1号館正面にテント2張りの校友会ブースを設営し、東京・東海・京都・中国・四国・九州の各支部の支部長並びに会員の方にお越し頂き、支部のPRと多数のご当地商品の協賛と、追手門学院

大学教育後援会、追手門学院大学卒業生保護者の方々が保管なさっていました。名刺入れ、キーケースなどのお宝グッズも今回初めて販売をさせて頂きました。

当日は、校友会総会前から多くの会員、学生や地域の皆さんにお越し頂き、ご当地商品とお宝グッズは早々に完売、50周年記念グッズも好評を頂き、多数ご購入を頂きました。

グッズの販売をきっかけに多くの会員にお会いし、新たな出会いと繋がりが出来、会員交流の一助になったのではないかと感じました。校友会ブースにお立ち寄り頂き、ご協力頂きましたことに感謝いたします。





総会開催・学院歌斉唱



天野初代学長像へ献花



佐山千尋さん・日本一の津軽三味線



追大名物・バームクーヘン

平成25年度 総会・大同窓会 ホームカミングデー アルバム



林田会長開会宣言



学長ご挨拶

ホームカミングデーの懇親会は、將軍山祭の1日を1部校友会総会、2部懇親会、3部大同窓会として、一連の行事として開催されました。懇親会場は食堂棟の1階で、大学主催にて開催されました。校友会の総会参加者も引き続き参加をいたしました。約580名という過去最高の参加者となりました。校友会役員も大学が3年後に創立50周年を迎えることもあり、会をあげてこの日に結集をはかりました。卒業生はもちろん、退職教員、教職員、そして大学執行部の皆様にもご参加いただき、旧友や恩師のみなさんとの会話が会場に響いていました。

林田会長からは、開会宣言と乾

杯の発声がありました。その中では、2013年秋の叙勲にて瑞宝中綬章を受章された元学院長・学長の鈴木多加史名誉教授へ花束が贈呈されました。恒例のアメリカ民謡研究部のOBのみなさんによる演奏のなか、にぎやかに歓談の輪が広がりました。最後に学院歌を全員で合唱して、その余韻に浸りながら散会となりました。

卒業生達は、次の3部の大同窓会（学部・学科同窓会、ゼミ同窓会、還暦同窓会、還暦プラス1同窓会、年代別同窓会、各クラブ同窓会）会場へと移動いたしました。



総会風景

アメリカンフットボール部



ESS



ギター部



アメリカ民謡研究部



ハンドボール部



ソキウス・社会学科同窓会



遠山先生講演会



ピアノ電子オルガンインストゥルメンタル部



経営学部同窓会



マスコミ研究会



ホームカミングデー
アルバム
クラブOB
同窓会
他の方々
(順不同)

剣道部



英米語学科同窓会



写真部



考古学研究会



書道部（紫水会）



社会福祉部



心理学部同窓会



少林寺拳法部



落語研究会



東洋史文化学科同窓会



ホームカミングデー
アルバム
クラブOB
同窓会
他の方々
（順不同）

17期同窓会



陸上部



37期同窓会



27期同窓会



還暦（7期）同窓会



還暦+1同窓会



ホームカミングデー
アルバム
クラブOB
同窓会
他の方々
(順不同)

クラブ・同好会
OB会

体育文化振興支援委員会

委員長 永井秀明

（5期）

校友
の皆さま
ま、い
かがお
過ごし

ですか。今春、新たに校友となられました卒業生の皆さまご卒業おめでとうござい
ます。さて、昨年の11月4日の校友会総会は200名を超える校友の方々にご出席頂き盛会の裡に開催することが出来ました。

引き続き開催されました
大学主催の懇親会も600名近い方々で食堂棟が埋め
尽くされました。川原理事
長、坂井学院長・学長並びに
大学関係者も多く、校友の
皆さまと笑顔で歓談されて
おられました。本年、新し
く企画致しましたクラブ・
同好会OB会・学部学科・
ゼミ同窓会々場となりました
2号館、4号館にも300
名近い校友の方々にご参
集頂きました。

久しぶりの再会を楽しむ様子、かつての恩師の講義に聞き入る姿がそこには有りました。多くの校友の方々に来校頂いた要因の一つとしてはクラブ・同好会のOB会ご代表者のご尽力がありました。OB会々員に総会、懇親会、同窓会への参加呼び掛けを熱心に取り組んで頂いた結果だと深く感謝致しております。誠にありがとうございます。体育文化振興支援委員会は、全ての体育会・文化会のクラブ、同好会にOB会組織の充実再編構築を目指します。2014年は達成の年と位置づけ活動しますが、校友の皆さまの更なるご協力が不可欠です。OB会組織の充実が母校の大きな発展につながる様に邁進努力致す所存でございますので、ご理解ご尽力を重ねてお願い申し上げます。

考古学研究会

考古学研究会のOB会組織であります「美陵会」の総会を開催いたしました。

吉田浩幸（6期生）の会長
辞任に伴い、新会長に越智
文章（18期生）が選出され
ました。他の役員には副会
長 喜多康紀（13期生）、事
務局長 植松淳博（19期生）、
財務・庶務 神保忠宏（22期
生）、相談役 吉田浩幸（6
期生）が任命されました。
また、特別会員に考古学
研究会の顧問の谷ノ内 識
氏が推薦され、承認されま
した。終了後には、茨木市
内にて懇親会を開催しまし
た。学生時代に戻って楽し
い一日でありました。

今、学内におきましては、
月見山古墳と真龍寺山1号
古墳の整備が進んでおりま
す。整備が終了しましたら、
見学にお越し下さい。

マスコミ研究会

じえじえじえ。

マス研OBBOG会総会に
初代部長・副部長が出席！

マスコミ研究会OBBOG会

会長 木村眞琴

（6期）

11月4日（月・祝）追大ホ

ームカミングデー後にマス
コミ研究会OBBOG会（以
下マス研OB会）を午後1
時45分から開催しました。
今回は、昨年の28名を超
える33名の参加者数となり、
初代部長である中村卓司氏
及び副部長の麦田達子さん
が総会に出席されました。

開会から会長挨拶・役員
幹事の紹介・参加者の自己
紹介・2013年度活動報
告・会計報告及び会計監査
報告そして、2014年度活
動方針を行い無事マス研OB
BOG会総会を終了しまし
た。二次会まで時間があるの
で、先輩・後輩や同期の者
と雑談をしたり、展示会場
や校内を散策したりしてJ
R茨木駅すぐの「はなの華」
にて午後6時より二次会を
開催しました。今回も昨年
の38名より多い50名に近い
参加者があり、仕事や家の
都合で不参加者もいました
が、各自飲むほどに昔のマス
研や学校の様子・あの教授
は？又、学部・学科など楽し
い話で盛り上がり、時間を忘
れて話していました。残念な
がら初代部長の中村氏と役
員の4期の八木さんは、仕事

の都合で参加出来ませんで
したが副部長の麦田さんや
昨年に続き3期の松本氏や
4期の雑賀氏が、OB会総会
と二次会にも出席頂き現役
や後輩等と楽しく話をされ
ていたのが、非常に喜ばしく役
員一同感謝に耐えません。林
田校友会会長の方針として、
2016年の創立50周年に向
かつて、マス研OBBOG会及び
現役も少しでも力になれる様
に頑張りたいと思っております。

アメリカ民謡研究部

アメリカ民謡研究部

OB会の進む道

アメリカ民謡研究部OB会

会長 早川勝彦

（8期）

アメリカ民謡研究部OB
会会長で8期生の早川です。
本年度のホームカミングデ
ーで正式にOB会が発足致
しました。我がクラブは、大
学創立時より音楽局の部と
して活動をして参りました。
今回のOB会参加人数は30
名でした。（総会、パーティ、
個別懇親会を含む）。OB

の総数が約450名なので、まだまだ少ないと言わざるを得ません。今まで1期生から10期生ぐらいまでで集まっていた事が多く、その辺りが今後の課題です。

幸いにもその中で11期生、16期生の参加者もあり、懇親会の時に先輩が話される創世記のクラブの苦労話など、熱心に聞いてくれた事が大変印象的でした。

2016年までにはまだ少し時間が有りますので、OB会内部でプロジェクトチームを造り、17期生以降の接点のない各期の部長、副部長に何とか連絡を取り、昨年卒業した44期生まで全力で会員名簿作成に邁進し、OB会の充実を図りたいと思います。

有難い事に、校友会、学校関係者の御努力に寄りますして、大学の環境、学力のレベルも徐々にアップして来ていると言う事なので、我々各クラブのOBが記念事業成功の為に、側面からしっかりと応援して行きたいと思います。

追手門学院大学発展の為に微力ながら頑張ります。

東洋文化学科同窓会

東洋文化学科 6期生一同

東洋文化学科は、アジア学科の南出先生サポートいた、だき6期のOBが主となり、千田稔 先生に当時の学生の生活や大学の講義状況をお聞きすることができました。

先生のお話に聞き入っていた同期の顔に、40年前の千田先生の講義が重なっていることが窺えました。

教室での席の座り方のパターン、隣に座する同輩諸氏も白頭が増えたり、横顔の皺が目立つたりではありましたが、衰えていない先生の巧みな話術とわがまま的発言にまだまあ若いお姿に当時を思い浮かべる6期でした。

教室を後にして、6期と有志でワインを飲みながら当時の東洋の先生方の思い出話に花を咲かせました。物故者となられた浅里君、和田（旧佐藤）さんの思い出を胸に次回の再会場所を道頓堀に決め、二次会の場

所へと移動しました。

東洋の6期はクラスの数も少なく、学生時代の交流が未だに続いている事にも他の学科のOBも垂涎の様でもありました。

千田先生有り難うございました。また、大学からのご支援に参加者一同心よりお礼申し上げます。

第8回 ソキウス総会開催！

今年も社会学部支援同窓会「ソキウス」の総会が、食堂棟3階のスタッフルームで開催されました。今年のホームカミングデーは十一月四日。例年通り、パーティの終了後午後一時半から、卒業生と恩師、現役の先生方にもご参加いただいた、和やかに開催されました。

総会の議事終了後、昨年からソキウス会長に就任されている四期生道盛正樹さんが、「苔に魅せられて」と題したミニ講演をお聞かせ頂きました。長年、研究を続けてこられた苔の魅力や、何故この道に進んだのか等、スライドを交えたさまざま

な種類の苔のご説明とお話いただきました。

その後、吉田・矢谷両先生の近況他、参加者全員が一言ずつ自己紹介も兼ねた近況報告を行い、和気藹々としたいつものソキウス総会となりました。今年参加いただけなかった社会学部卒業生は、来年ぜひご出席ください。

還暦同窓会 「7期生の集い」

平成25年11月3日（日）（文化の日）の午後1時30分より、追手門学院大阪城スクエア（大手前）にて、「7期生の集い」が開催されました。

当日は、7期生の出席者38名、恩師の藤本忠明名誉教授、西川喜朗名誉教授、そして、校友会から林田会長、学校から、川原理事長、水藤副学長の計43名にご臨席いただきました。

校友会 生川副会長作成のショートストーリー（7期生のアルバムより）の上映の後、校友会 美濃岡常任理事（7期）の司会で、とても和やかに、そして楽し

く進められました。

大学を卒業して38年、それぞれに年を重ね、ふと気づいたら還暦の年に。でも、みんなが出会った瞬間、そこは大学のキャンパスに変わりました。

藤本先生や西川先生の懐かしい思い出話、出席者の懐かしい思い出スピーチで、会場は30数年前にタイムスリップしたようでした。

最後に、全員で学院歌を合唱し、記念写真の後、またの再会を約束してお開きとなりました。ご参加いただきました皆さま、そして、駆けつけていただいた藤本先生、西川先生、ありがとうございました。（森）



頑張る学友達

◆学生表彰◆

校友会では、毎年頑張る学生達を表彰しています。

今年も、多くの学生達を表彰しました。

その中の一人、東京パラリンピックを楽しむに、車いすバスケットに打ち込んでおられる、北間優衣さんにお話をお聞きました。

頑張れ！北間優衣さん

この度、校友会にて表彰をしていただきありがとうございます。私がやっている活動に対し表彰していただき大変嬉しく思います。今回来られていた方々とお話をさせていただいた時、車椅子バスケットボールは知っているけれども、実際、健常のバスケットボールとコートの高さ・リングの高さなどまでは知らないという方が多くいました。車椅子



77号の発行を心よりお祝い申し上げます。また、我が学友会本部を懇親会にお招きいただき厚く御礼申し上げます。この様な貴重な機会を設けていただくことで、普段では関わり合いになる

13FS081

北間 優衣
(1回生)

志

学友会本部委員長

岩本 龍哉

(3回生)

この度は校友会会報第

「我」を強く持つ、「和」やかに、「輪」をつなぐという意味を内包しています。この考え方を軸に45期を越える活動を積極的に行ってきたいと考えています。

何分未熟者な私達ではございますが、学校をより良いものにしていきたいという志は皆様と同じであります。校友会の皆様のご助力を賜り、各本部・委員会一丸となって励んでまいります。

ダブルダッチ 世界大会優勝！

2013年12月8日(日)にニューヨークで開催されたダブルダッチの世界大会、「第22回 Double Dutch Holiday Classic」(National Double Dutch League主催)に、本学の学生が日本



代表として出場し、見事に優勝いたしました。

出場したのは、本学のダブルダッチサークル DUTCHERS616 所属のチーム「Neighborhood」。

メンバーは国際教養学部英語コミュニケーション学科4年生の後藤亮輔さん、同野田大喜さん、早川阿紀さん、増田千紘さん、経営学部マーケティング学科の荻野加菜さんの5名です。

おめでとうございます！！



留学生バスツアー& 上海の留学生同窓会

追手門学院大学

国際交流教育センター

董倩婷

2013年11月16日(土)

留学生を対象に校友会主催の淡路島日帰りバス旅行を開催した。当日は晴天に恵まれ、留学生25名、校友会参加者7名、大学引率職員1名、計33名が参加し、バスにて南淡路島に移動。

まず向かったのは、国指定重要無形民俗文化財に指定された淡路人形座。まるで生きているような人形の動き、何役もの役を一人で演じる太夫、そして物語を盛り上げる三味線や太鼓など、留学生達にとって、初めての体験で、その一つ一つに留学生達はみな瞳を輝



かせながら吸い込まれるように見入っていた。

大鳴門橋記念館で昼食後、鳴門のうず潮を見るために、観潮船に乗りこみ沖に出た。残念ながら渦潮はあまり見ることが出来なかったが、鳴門海峡の雄大な景色と遊覧を楽しんでいた。

帰りの車内では、校友会の林田会長を筆頭に、「追手門学院歌」をみんなで大合唱した。強い愛校心が明らかに！

普段はあまり接することのない校友会の大先輩達と留学生達は、日本文化を肌で感じたり、世界遺産に認められた美味しい日本食を食べたり、秋の美景を満喫しながら、親睦を深めた1日となった。

また、同月の23日に上海市内の「和記小菜」で坂井学

院長・学長出席の下、第3回卒業留学生同窓会を開催した。本学では毎年多くの留学生が卒業・修了し、世界各地で活躍していますが、久しぶりに会った元留学生らが互いに旧交を温めるとともに、追手門学院大学での楽しかった留学時代について大学関係者とともに懐かしんでいた。今後は同窓会員相互の親睦向上をはかるとともに、母校の発展に貢献し、また中国と日本の友好関係の進展に寄与することを目的に活動を行っていく。

当日、同窓会に出席した卒業留学生に校友会からの記念品を渡し、校友会の先輩達からの厚意をととても嬉しく思い、来年は校友会の先輩達にも是非この同窓会に出席していただきたいとの声が多く寄せられた。



淡路島日帰り バス旅行

追手門学院大学大学院

心理学研究科心理学専攻

賈璟

(1回生)



2013年11月16日(土)、留学生皆との淡路島日帰りバス旅行を楽しませて頂きました。

晴天に恵まれた当日、バスの中で皆自己紹介をしながら、淡路人形座へ向かいました。そこで人形芝居を鑑賞することができ、日本独特の文化を体験することもできました。その後の昼食は、大鳴門橋記念館で美味しい海鮮のしゃぶしゃぶ料理を頂きまして、淡路島

や鳴門海峡の最高の風景を眺めながら、校友会の方々と一緒に新鮮な食材を楽しめました。ご馳走になった後、水中観潮船に乗って、世界3大潮流のひとつである鳴門海峡の潮流を見に行きました。当日、極小さな渦潮しか観察できなかったですが、鳴門海峡の自然の美しさに圧倒されました。

短い間でしたが、皆写真を撮ったり、笑ったりして、充実な一日を過ごしました。日本特有の文化や自然の魅力など、普段の学生生活で感じられないことを体験でき、本当に楽しかったです。最後、校友会の方々に心より感謝申し上げます。このような気持ちを持って、来年も楽しみにしております。



遠山ゼミの皆さんへ

昨年、11月4日のホームカミングデーでは、多くの卒業生が遠山先生のお話しを、当手を想いおこしながら懐かしく受講させていただきました。本年は、遠山先生のご厚意により、全遠山ゼミ同窓会（遠友会）を年2回 左記の要領で開催する運びとなりました。

遠山嘉博先生は1966年の追手門学院大学発足当初から、2006年の大学院特任教授退任まで、実に40年の長きに渡り勤められました。遠山ゼミ卒業生は、1970年4月卒業の1期生から2006年3月卒業の37期生まで、数多くいらっしゃいます。昨年に増しての同窓生のご参加を願います。

◆ご案内◆

春分の候、遠山ゼミ同窓生の皆さんにはお元氣の事と存じます。本年一月、遠友会活動について遠山先生にご了承承いただき、下記のとおり年二回（昼と夜）の開催となりました。

1. 7月16日(水) 18時30分より梅田サテライト
(16F)にて

2.
11月2日(日) 追手門
遠山嘉博先生ご講演
「現在の日本経済・世界
経済における諸問題」
終了後 17F里山ダイ
ニング(バイキング、ビ
アホール)にて懇親会
会費4000円

学院大学校友会総会
ホームカミングデー参
加後14時（予定）から
大教室にて遠山先生の
講演会と懇親会

追手門学院大学

遠山ゼミ同窓会（遠友会）
会長 寺田 紘
（1期）

ご参加いただくときは、
左記連絡先までお願いいた
します。

【連絡先】

遠友会 会計

下櫻 春道 (5期生)

$$\overline{6350831}$$

奈良県北葛城郡広陵町

馬見北7丁目4-9-1

0
7
4
5
—
5
5
—
8
3
8
1

(FAX兼用)

思い出の大学時代 ノートの設置

ホームカミングデーの開
催時に「思い出の大学時代
ノート」を作りました。当日
には、みなさんにご記入を
していただきました。その
ノートを将軍山会館1階の
本箱に置いております。引
き続きご来校された時には
是非ご記入をしていただき
たく思っております。

各クラブ、各ゼミ、各学部（学科）ごとにノートがあります。またノートが置かれていないところがありますので、事務局まで申し出て下さい。設置させていただきます。



今年、天野初代学長、
生誕百十周年です

1888（明治21）年、

追手門学院は高島鞆之助先生により「大阪偕行社附属小学校」として大阪城のそばで産声をあげました。それから120余年。建学の精神「独立自彊の精神の涵養」をもとに、片桐武一先生、八束周吉先生、天野利武先生はじめ多くの偉人方に支

その後、もつとわかりやすくという意味も込めまして、「追手門の歩み」マンガ版が発刊の運びとなり、追手門学院の関係諸氏に親しまれています

1904年（明治37年）1月1日東京赤坂にお生まれになられた天野先生が今年、生誕110年を迎えられます。

はじめ多くの偉人方に支

年を迎えられます。

間教育を貫いてきました。

になられ、その後ご苦労

そして2011年、い

を重ねられ、現追手門学

この時代も新しい挑戦を

院大学へ育つ基礎をお造

続けてきた学院の歩みを

りになりました。その

見るために一追手門の歩

事もわかりやすく表現さ

「みっ世紀を超えて」が発

わています



大学便り

ユニバーシティ
アイデンティティ
(UI)について

【目的・位置付け】

本学ではこのたび、強み・特色に基づく内外での認識、期待・信頼を高める広報の実践を目指す為に「追手門学院大学のアイデンティティ（UI）」を策定し、以下のスローガン、キャッチコピー、ステートメントを完成させました。

【UI策定の背景】

学生・教職員インタビュー、資料分析の他、各種議論から見えてきた本学の在学生像は「素直」「まじめ」「おっとり」。その一方で積極性は高くなく、役割を与えられて成果を出す経験を持たないまま入学してくるとの声が聞こえてきました。

しかし、大学で役割を与えられたことで、想像もなかった成長を遂げるケースも多く見受けられます。教職員が学生一人ひとりと向き

合い、成長のきっかけを与え、彼らの「想像もなかった自分史」のはじまりを追大で演出する。

【スローガン】 想像もしなかった自分史がはじまる

【広告キャッチコピー】 自分史上、想像以上！

【ステートメント】

追手門学院大学の教育理念は、
「独立自彊・社会有為」。

人文・社会科学系の多様な学部が一同に集い、
学生と教職員との顔の見える関係を活かして、
誰もが学生一人ひとりと向き合い、個性を尊重した成長支援を行います。

伝統の自由な校風と、北摂の豊かな環境のもと、
学問だけにとどまらず、地域活動や学内での多彩な成長の機会に学生を導き、
主体性を引き出します。

専門教育、研究と同じく重要な、人間教育からキャリア教育までを通じて、
大学4年間の個々の成長に責任を果たすことを使命とします。

地域社会からグローバルまでの様々な場で、社会的使命実現のために行動し、
自分を変えていける人材に。

その成長の場が、追手門学院大学です。

本学UIのスローガンにはそんな思いが込められています。

恋するフォーチュンクッキー追手門学院大学Ver.

このたび追手門学院大学では、AKB48の曲に合わせて学生、教職員が踊る「恋するフォーチュンクッキー 追手門学院大学Ver.」の制作を行いました。

「学生、教職員が一緒にあって踊ること、一体感を味わいたい、大学を盛り上げたい！」そんな思いから制作が始まりました。

「追大緑地」での全体撮影会には、学生、教職員含め200名以上が参加！延べ500名が参加した元気いっぱいのムービーが完成しました！

学生と教職員の距離が近い大学。そんな追手門学院大学の魅力が詰まった想像以上の作品を、ぜひご覧ください！

<http://www.youtube.com/watch?v=XfMMH1ZCmGY>

● 右記のURLを直接入力するか、「恋するフォーチュンクッキー 追手門学院大学」で検索ください。

教職支援センター

追手門学院大学では、教員を志す学生や卒業生を支援するため「教職支援センター」が昨年の5月に設立されました。皆さまの中で、教職をめざしている方がおられれば、ぜひセンターをご利用ください。また、すでに教職に就かれている方は今後の後輩らの激励のため、講演会・座談会などの講師をお願いすることもあるかと思いますが、そのときにはご協力をお願いいたします。

なお、本学では教職課程履修卒業生の情報がまだまだ十分ではありません。そこで、このたび教職支援センターが中心となり、情報の収集をして、教職志望の卒業生の方々の支援等に役立てたいと考えております。つきましては、近況などをお知らせくださいますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先
教職支援センター

TEL

072-641-9187

E-mail

kyoshi@office.otemon.ac.jp

初代学長天野先生に関するメッセージ募集

校友会会報14ページにも紹介していますが、2014年に初代学長天野利武先生が生誕百年を迎えられました。將軍山会館では2016年の大学創立50周年に向けて天野先生の紹介を実施しています。天野先生には第1期生の宮本輝(芥川賞受賞作家)さんも学生時代にテニスコートの費用をポケットマネーで資金援助をいただいたという明けています。

著名な先生方を招き教育・研究の充実を図り、それだけでなく国際交流、クラブ活動支援など積極的に実施してきた天野先生。卒業生、教職員の方もお世話になった方がおられることと思います。

次号の校友会会報にはそんなエピソードをご紹介できればと思います。遠慮なく校友会事務局までエピソードをお寄せください。



ゆるキャラ・

4こま漫画に
ついてお知らせ

この度はご応募頂き誠に有難う御座います。今回、発表がぎりぎりまで審査を行いました結果、残念ながら該当入選作品は選ばれませんでした。

つきましては、再度、後輩たちが在校生も含め、広く多くの方からの公募をお待ちし選出することとなりました。

ご応募詳細は、校友会HPをご覧ください。

プロフィールシートのお知らせ



先号(74号)まで掲載並びにご記入・ご返送を頂いていましたプロフィールシートは校友会ホームページに移管しました。プロフィールシートのご記入は左記URLからお願い致します。
プロフィールシートURL
<http://www.ogu-koyukai.com/profile.html>

校友会と母校の最新情報「校友会メールマガジン」へ登録を

校友会では 携帯電話とパソコンにメールマガジンを配信しています。

また、携帯電話用のホームページにもメールマガジンは伝えきれない情報を、リアルタイムにお伝えできるようになりました。

メルマガ登録と携帯電話へのブックマークの登録をお願いいたします。



パソコン用
http://ogu-koyukai.com/script/member_regist.php



メルマガ登録
メルマガの受信はパソコンと携帯電話両方に登録できます。

携帯用HP
<http://www.ogu-koyukai.com/keitai/koyukaishop.html>

Facebookに「いいね!」を!

校友会では、Facebookの運用を開始しました。校友会ホームページ、メールマガジンと共に、校友会活動並びに母校のイベント、在校生達の対外試合の最新情報をお伝えしたいと考えております。



Facebookならではの、速攻性や写真を活用し、より充実した情報をお届け致します。校友のみならずぜひアクセスして「いいね!」をお願い致します。

《お詫びと訂正》

校友会会報76号掲載の、高島 勲之助賞を受賞された、藤尾政弘様の社名、職位名に誤りが御座いました。正しくは、藤尾政弘様「株式会社フジオフードシステム・代表取締役社長」です。訂正と共に深くお詫び申し上げます。